



JAPANESE GEOPARKS NETWORK



日本ジオパーク 糸魚川大会

報告書

平成22年

8.22日~23日

ところ/糸魚川市民会館 ほか

シンポジウム

1 オープニング 「合唱「翡翠に耳を澄ませば」

2 開会式典

3 日本ジオパーク認定証授与式

4 基調講演1

「花伝説から未来へ」

花伝説・宙へ！ フロテューサー
有人宇宙システム株式会社 主幹技師

長谷川 洋一

5 基調講演2

「姉妹ジオパークの意義と連携」

香港ジオパーク シラジオパークオフィサー

ヨン・カミン(楊家明)

6 パネルディスカッション

「武田鉄矢と語る」

「今、ジオパークがおもしろい！」



コーディネーター
武田 鉄矢

(俳優、タレント)



アシスタント
伊藤 聡子

(宇多田ヒカル、椎林武彦のマネージャー)



パネリスト
松原隆一郎

(東京大学大学院教授)

ほか

7 記念演奏

「糸魚川ジオパーク音頭 ほか」

糸魚川ジオパーク大使

高橋 竹山

8 日本ジオパーク糸魚川大会宣言

主催/日本ジオパーク糸魚川大会実行委員会、財団法人自治総合センター

後援/総務省、外務省、文部科学省、文化庁、日本ユネスコ国内委員会、農林水産省、経済産業省、国土交通省、観光庁、環境省、新潟県、社団法人全国地質調査業協会連合会、NPO法人防災情報機構、財団法人国立公園協会、日本第四紀学会、一般社団法人日本地質学会、社団法人日本地質学会、NPO法人日本火山学会、社団法人日本地理学会、新潟日報社、株式会社上越タイムス社、朝日新聞新潟総局、毎日新聞新潟支局、読売新聞社上越支局、産経新聞新潟支局、信濃毎日新聞社、日本経済新聞社新潟支局、NHK新潟放送局、BSN新潟放送、NST、TeNYテレビ新潟、UX新潟テレビ21、FM-Jエフエム上越、株式会社衛星チャンネル、有人宇宙システム株式会社

協賛/日本ジオパーク委員会、日本ジオパークネットワーク、糸魚川ジオパーク協議会

※このシンポジウムは全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施したものです。

オープニング

ひすい
合唱「翡翠に耳を澄ませば」ほか

出演 奴奈川姫を歌う会

曲 「我が奴奈川姫」～「翡翠に耳を澄ませば」
(歌劇「奴奈川姫」より)



主催者あいさつ



日本ジオパーク糸魚川大会
実行委員会 委員長
糸魚川市長
米田 徹

本日は、大変多くの皆様からご参加をいただき、厚く御礼申し上げます。
思い起こせば昨年8月22日、日本から3地域の世界ジオパークが誕生しました。日本各地の魅力的な地域資源を生かすために世界ジオパークを目指す13地域が、平成19年12月に「日本ジオパーク連絡協議会」を設立してから、2年間という短期間での実現であり、今回、日本ジオパークのスタートの大会が開催できますことを、改めて各省庁や学会など、関係する多くの皆様のご支援と、各地の積極的な活動の賜と感謝申し上げます次第であります。

ジオパークは直訳すると「大地の公園」、「地質の公園」となります。しかし、生命の誕生は、大地、地質の多様性から出現したことを考えれば、ジオパークは地質や地理学だけではなく、自然環境や歴史・文化、教育など、人間社会を構成するあらゆる領域を対象とした資源や資産を、地域活性化により保護、保全することを目的としております。特にジオパークの特徴は、資源や資産を地域活性化により保護や保全を行うことでもあります。保護や保全だけではなく、地域活性化につながることから、全国の多くの地域がジオパークを目指しておりますが、新しい取り組みであり、国内外の認知度は未だ低く、交流人口の拡大には、ジオパークの全国へのさらなる普及とその充実といった課題もあります。

本大会は、ジオパークを多くの方々から知っていただくことが必要であり、興味を持っていただくとともに、各ジオパークの情報交換や意見交換などを行い、日本の関係者が一丸となって、ジオパークの一層の発展・向上につなげることを目的として開催いたします。

本日は、NHK大河ドラマ「龍馬伝」で勝海舟 役など幅広い分野で活躍されている武田鉄矢さんをお迎えし、社会経済学に明るく評論家としてご活躍の松原先生、糸魚川ジオパーク大使の高橋竹山さん、伊藤聡子さんとのパネルディスカッションも予定されています。ジオパークの魅力や楽しさに触れる機会になるものと期待しているものであります。

結びに、本大会が有意義で実り多い、また歴史的一日となりますよう、ご来場の皆様からの絶大なるご支援を切にお願い申し上げます、開会のごあいさつといたします。

来賓あいさつ



衆議院議員
筒井 信隆

日本ジオパーク糸魚川大会が盛大に開かれたことを、心からお祝い申し上げます。
ヒスイが宝石として使えるものは、日本では糸魚川だけで産出されます。ヒスイをはじめとした、この地域に豊富にある地質資源、これを活用しない手はありません。地質資源を活用した事業・観光事業を盛んにしていくことが、この地域に託された任務だと思っております。さらに漁業・農業を発展させ、地域資源を活用して新しい事業を興す“6次産業化”―農業者も漁業者も、加工業・流通にも進出をして、より多くの利益をこの地域にもたらす、こういう活動をしていけば、必ずこの地域のさらなる発展が実現できます。また、新潟県に中国の総領事館ができました。日本海側では新潟県だけです。現在、中国は富裕層が5,000万人から1億人いるという状況でして、観光がとて盛んです。糸魚川への観光も、盛んに中国に働きかけていかなければいけないと考えています。

ジオパークをはじめとして、地域の資源を地域の振興のために、皆さんと一緒に活用をしていきたい。このことを申し上げさせていただいて、私のお祝いの言葉とさせていただきます。



新潟県知事
泉田 裕彦
(代理 新潟県副知事 神保 和男)

本日、日本ジオパーク糸魚川大会が盛大に開催されますことを、心よりお喜び申し上げます。
皆さんもご承知のとおり、昨年8月、洞爺湖有珠山、島原半島、糸魚川の3地域が日本初となる世界ジオパークに正式に認定されたことを契機に、貴重な地域資源としてジオパークが世の中の注目を集めております。また、現在国内の日本ジオパーク認定地域は11地域に達し、さらに全国的な広がりを見せております。各地域で皆さんにおかれましては、ジオパークを活用した地域活性化へつながるさまざまな取り組みが推進されており、心より敬意を表する次第であります。今日、地域が主体となりそれぞれの状況を生かした個性豊かな地域づくりが、全国各地で進められているところでありますが、ジオパークは、観光・学術・文化・教育など、さまざまな分野で活躍が期待できる大きな可能性と魅力を持った地域資源と言えます。こうした中、皆様がお集まりになり、さまざまな情報交換を通してジオパークをキーワードとした新たな地域づくりについて考えていただくことは、誠に有意義なことと考えております。この大会の開催により、皆様の連携がさらに深まるとともに、今後、日本のジオパークがますます充実・発展することを願っております。



日本ジオパーク委員会 委員長
尾池 和夫

日本ジオパーク委員会を代表してお祝いを申し上げます。盛大な催しになりまして、本当におめでとうございませう。

糸魚川という土地は、地球科学者からすると大変魅力的な土地であります。ユネスコが支援するグローバルジオパークネットワークというものに初めて申請する国は、3か所まで推薦する権利を持っていて、日本はいきなり3つ権利を行使して申請したのですが、見事に3か所とも合格してくれました。いきなり3つも申請して3つ合格した国は初めてなんです。糸魚川は、世界ジオパークネットワークができる前から見事にジオパークという言葉を使っていました。ですから、世界のジオパークは糸魚川から発信されたと思っていただいていたと思います。ここ糸魚川で言っていたジオパークが、今、世界の60数箇所に広まってきました。そういう場所ですから、糸魚川はリーダーシップを発揮するジオパークとして、大いに活躍してほしいと思っています。そして、そのことにふさわしいこの大会が初めてこの地で行われることに、非常に感激しております。本当におめでとうございませう。

認定証授与

2009年、新たに「恐竜渓谷ふくい勝山」、「隠岐」、「天草御所浦」、「阿蘇」の4地域が日本ジオパークに認定され、その認定証授与式が本大会において行われた。

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク



【ジオパーク紹介】

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークは、日本列島のほぼ中央、福井県の北東部に位置する勝山市の全域をエリアとし、「恐竜、恐竜化石」をメインテーマに掲げるジオパークです。学術的に貴重な恐竜化石が数多く発見されています。「恐竜、恐竜化石」をメインテーマ、「火山と火山活動」、「地質・地形遺産と人々の暮らしとの関わり」をサブテーマとし、訪れる人々が目で見て、肌で感じることができる“地域まるごとジオパーク”を目指しています。



隠岐ジオパーク



【ジオパーク紹介】

隠岐ジオパークは、島根半島の北40kmから80kmの日本海に点在する4つの有人島と180余りの無人島からなる隠岐諸島全域をエリアとしています。隠岐諸島は大陸の縁辺であった時代を経て、今から約1万年前に現在のような離島となりましたが、それぞれの時代の証拠となる地質現象を、隠岐という小さな島で凝縮して観察できることが最大の特徴となっています。多様な植物が混在する不思議な植物分布、黒曜石から始まる日本の歴史なども魅力です。



阿蘇ジオパーク



【ジオパーク紹介】

阿蘇ジオパークは、熊本県の北東部に位置する標高400mから1,600mの高原地帯で、熊本県の15%ほどの面積を占めています。阿蘇火山は、数十万年にわたる火山活動で作り出された世界有数の巨大なカルデラや、多くの火山体で構成される火山群などの雄大かつ多様な火山地形・地質を特徴としています。「阿蘇火山の大地の成り立ち」並びに「この大地と人間生活との関わり」に対する理解を深めることが阿蘇ジオパークのテーマとなっています。



天草御所浦ジオパーク



【ジオパーク紹介】

天草御所浦ジオパークは、熊本県天草諸島の南東部にあり、1億年前の白亜紀から4,500万年前の始新世に堆積した地層が、傾動・隆起してできた大小18の島々からなる地域です。「化石の島」とも呼ばれ、御所浦白亜紀資料館を拠点に、10年程前から地層や化石を生かした地域振興活動が行われています。地層に埋まったまま展示してある直径約60cmの巨大アンモナイトや、化石の体験採集、海上タクシーを使ったジオツアーなどが人気です。



基調講演 I

花伝説から未来へ ～宇宙を旅したササユリの物語～

花伝説・宙へ！ プロデューサー
 有人宇宙システム株式会社 長谷川洋一

1962年神戸市生まれ。東京大学農学部卒業後、製薬会社勤務を経て、有人宇宙システム株式会社勤務。国際宇宙ステーションの利用計画に携わった後、宇宙ビジネス開拓に尽力。2008年、全国各地の花を宇宙に届ける事業「花伝説・宙へ！」を立ち上げる。糸魚川市の小野健博士との親交があったことから、同市の花、ササユリも選ばれた。



この糸魚川の皆さんとは大変深い縁があります。今日はその人と人との出会い、奇跡の地・糸魚川がもたらしたものを、それらを振り返りつつご紹介したいと思います。



2008年から2009年にかけて、糸魚川からササユリの種子が、若田光一さんとともに宇宙を旅し、無事に帰って参りました。糸魚川在住の小野健先生の言葉、「継続はカタチなり」。継続するだけでは意味が無く、一つ一つカタチを出していくことが大切、ということです。もう5年も前になりますか、私は小野健さんがつくった桐海新道をテーマに小説を書くつもりで、その取材のため小野さんにお会いしました。その別れ際に、小野さんがおっしゃった「ササユリを今育てていてねえ」という言葉が心の隅に残っていました。このなにげない一言が、糸魚川と宇宙をつなぐことになるのです。

「花伝説」—この事業は、日本各地の花の種が宇宙旅行をするという物語です。市民の手で集められた全国14か所の桜やスミレとともに、この糸魚川のササユリの種がNASAのスペースシャトルに乗って、若田光一さんとともに国際宇宙ステーションまで旅をし、地球へ帰って参りました。その貴重な宇宙飛行士である花の命をまた各地にお戻しし、それらが力強く芽吹き、再び花を咲かせる姿から、命の美しさを実感しようという文化事業です。小野さんとのご縁は、小説という形にはなりませんが、かわりに糸魚川に宝物をもたらしたわけです。糸魚川はササユリの生育の北限に近く、丈が小さくて非常にやさしい姿であるそうです。ササユリの学名はリリウムジャポニカムで、日本ユリともいえる名前です。

2008年3月にこの計画がスタートしまして、2008年9月に種をお預かりし、NASAへ輸送、2008年11月15日にエンデバー号で打ち上げました。見事な打ち上げでした。そして宇宙に到達し、国際宇宙ステーション「きぼう」に保管されました。国際宇宙ステーションは地上約400kmのところを、わずかに90分で地球を一周しています。このササユリの種は約8か月半宇宙におりましたので、地球を4,000周くらい回ったということになりますね。そうして若田光一さんとともに、無事、昨年7月31日に地上に帰って参りました。ちょうど機を同じくして糸魚川が世界ジオパークに認定されて、その直後、昨年9月10日に、皆さんのもとに種をお返ししました。

日本中でおそらく1万人近い



市民の皆さんがこのプロジェクトに参加しています。種をお返しした際、どの地域も宇宙から帰ってきたふるさとの代表を、歓迎の式典を開いて迎えてくださいました。ここ糸魚川でも市民の皆様の合唱や小野健先生のお話といったイベントをしていただきまして、ジオパーク発ササユリ宇宙旅行ということで、ひとつの文化事業が完成したわけです。

昨年12月5日に東京で花伝説サミットを行いました。これは全国の花伝説にかかわった皆様が一堂に会して、これからの絆を作るという趣旨のサミットです。糸魚川からは17名の小学生が参加されました。そうして全国の約400名の参加者で、花伝説の共同宣言を行いました。「無限の宇宙の時の中、わたしたちは花伝説で結ばれました。この出会いを忘れることなく、この星の命の美しさを守り、受け継いでいくことを誓います」—こういう思いが込められていました。

そして今年の春、宇宙から帰ってきた桜が次々に発芽しています。高知県、岡山県、山梨県、各地でそれぞれ宝物になっています。糸魚川のササユリは、現在発芽準備中で養育されているところなのですが、もう少しで発芽するのかな、というところまで種が膨らんできています。そして花伝説は広がっていきます。例えば多摩市、浜松市、アメリカのピッツバーグから、宇宙を飛んだ花の命を私たちにも分けてほしいという申し出がきています。こちら糸魚川のササユリも、発芽したというニュースが全国に巡りますと、そういった問合せが来るのではないかなと思います。宇宙を飛んできた花の命は、もはや文化遺産。みんなで大事にしなければいけません。その土地から広げていくことは、この事業の意味を遂げていくために、非常に良いことだと思います。

「継続はカタチなり」ということで始まりましたが、「夢もまたカタチなり」ということが言えるのではないのでしょうか。夢を見るだけで「いいいいいな」と夢想するだけではなく、やはりそれを目標に変えた瞬間から、実は1%、2%と叫び始めていくということが、この宇宙のプロジェクトや、人類のあゆみ、そして糸魚川が世界ジオパークに向けて努力したプロセス、そういったことを見ていると分かります。夢のような事業を日常生活や仕事の中でやろうと計画すると、昨今は予算が、リスクが、という批判にさらされるかと思えます。ただ、そこで批判を恐れたら、夢は夢で終わり幻になって消えてしまうでしょう。夢がリスクだというのなら、できるのにやらないリスクはどうなんだという思いで仲間を見つけていく、そういったことで大きな事業というのは成り立っていくのではないかと思います。糸魚川ジオパークは今、日本の先頭を走っておりますけれども、本日も4つの新しい仲間が認定され、こうやって思いが人を呼び、絆ができ、事業が大きく広がっていく、ということは今まさに我々は見ているわけですね。

あのササユリは糸魚川で生まれました。ジオパークの代表として真っ先に宇宙飛行をしてきたこのササユリを皆様の手で育て、受け継いで、この糸魚川の地から世界へ発信していかうかがでしょうか。



基調講演 II

姉妹ジオパークの意義と提携

～香港国立ジオパーク - 国際ジオパークネットワークとの提携～

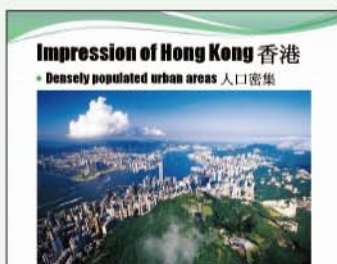
香港ジオパーク
シニアジオパークオフィサー 楊家明 (ヨン・カミン)

1984年に香港大学大学院卒業後、ロンドン大学ワイカレッジで理学修士号、香港大学で博士号を取得。中学校教師、大学の助手などを経て、2009年7月から香港ジオパーク主任官となる。現在、香港ジオパークの計画・運営、国際連携などに携わる。

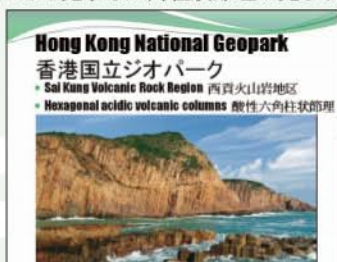


香港は市街地の人口密集と無数の高層ビル、目も眩むような明かりと活気あふれる都会生活で有名です。しかし、この国際都市のすぐ隣には、ほとんどの旅行者、いや香港住民さえ知らない自然の宝庫が広がっています。香港ジオパークは、この街に、世界の国々と共に地球環境保護に貢献する貴重な機会をもたらしてくれました。同時にジオパークは香港東部地域に何百万年にもわたって存在していた、世界的規模の六角柱状節理群と堆積岩層に脚光を当て、多くの人々がそれを鑑賞できるようになりました。大都会のすぐ隣に郊野が広がり、自然の宝庫があるという意味で香港は実にユニークな都市なのです。

香港ジオパークは2009年11月に設立されました。しかし、香港では実は今から30年以上も前に自然保護システムが導入され、1977年6月には最初のカントリーパークが設置されました。土地が限られ、人口が絶えず増加し続ける香港では、埋め立て、郊外の開発とビル建築は不可避で、自然景観は一貫して開発の脅威にさらされてきました。しかし、幸いなことにカントリーパークシステムがこうした脅威を緩和してくれました。香港がこれまで培ってきた自然環境と生態系の多様性は、世界中の他の都市と比べても優れたもので、私たちはこれを誇りにしています。現在、カントリーパークに代表される自然保護地区は香港のほぼ40%を占め、自然保護、教育、余暇、ツーリズム、そして科学研究にとって貴重な拠点となっています。近年、多くの国や地域が地球環境保護により重きを置くようになり、また、自然保護の不可欠の要素として、地質多様性の重要性が認識されるようになりました。私たちはこうした他国の動きに触発されて、自然景観と地質景観を保護するための計画を策定し、これが結果としてジオパークの設置というアイデアにつながりました。



香港ジオパークは、地質的には全く異なる2つの地域からできています。西貢火成岩地区では見事な六角柱状節理が見られます。この節理群は100km²にわたって広がり、中には直径2m以上の節理岩もあります。大変特殊な酸性岩からできていて、興味をそそります。新界東北部堆積岩地区では、4億年前のデボン



紀の砂岩や礫岩から5,500万年前のシルト石まで、堆積岩の広範にわたる地層配列が見られます。

香港政府は、香港ジオパークをユネスコ認定の国際公園にするべく、管理計画、一般向け科学教育、情報施設等の主要機能の充実に力を注いでいます。管理体制は強化され、現地の解説用施設も完成しました。提携ネットワークを拡大し、香港、中国、海外の地質大学、リサーチ機関との協力関係も拡充しました。十分な知識を持ったチーム編成のために、OJTや座学によりあらゆる層のスタッフ教育に全力をあげています。訪問者用の施設拡充のためにはNGOや地方組織との協力関係を結び、またツーリズムの振興も目指しています。私たちは、香港ジオパークの方針がユネスコの要請に合致しているかどうかを確認するために、中国、日本、オーストラリア、欧州の20以上のジオパークを訪問し、多くを学びました。また良きアドバイザーをもち、香港に多くの専門家を招致しました。香港の関係者も多くの会議に出席しました。どのような点を改善し、どうやって変化させるのかを学ぶのに大変有意義でした。ビジターセンターの運営、地方物産や名物料理の販売促進、情報板やビジターセンターでの分かり易い地質関連物品ならびに子供センターの取り扱い、さらには、ツーリストのための先進的なポートツアーの実施方法等々を学ぶために、地方自治体も訪問しました。この見返りに、私たちは保護区制度の運用、関連図書の出版、広報や教育のための先進的手法などについての経験をお伝えしました。



私たちは、他のジオパークとの交流と協力を、経験の交換と管理の向上のための重要戦略ととらえています。このため、中国の雁蕩山ジオパーク、日本の糸魚川ジオパーク、英国のリベラジオパーク、そしてオーストラリアのカナウインカジオパークの4つのユネスコ公認のジオパークとの間で、姉妹提携を締結しました。緊密な協働関係の確立、ジオツーリズム、地質教育、地質遺産の持続的発展のための相互便益供与や経験の交換をできる格好のパートナーです。4者の主要な協働活動は、ジオパークの相互紹介、展示用サンプルの相互交換、相互訪問などです。姉妹ジオパークを訪問した場合にはその地方のマスコミとのインタビューの機会を持ち、ジオパークを広く宣伝するようにしています。私たちは国際協力と交流促進のために、姉妹ジオパークのみならず、その他のジオパークとの間でも共に手を携え進んでいきます。将来に向け、素晴らしい自然の地質と文化遺産の保護という基本理念を高く掲げ、できるだけ多くの人々に地質科学の普及と地質保護を訴えていきます。

意見発表

子ども学迎員からのメッセージ



糸魚川市立青海中学校 1年生 月岡 流慧

僕がジオパーク検定を知ったきっかけは、父と一緒に受けてみないかと誘われてでした。そのときはどんな検定かなと興味本位で受けたと言いました。でも、どうせやるなら合格したいので、がんばりました。講習会にも出て勉強もしたし、寝る前にも毎晩勉強をかかさずやりました。やっているときには、興味本位ではなくジオパークのことをもっと知りたいなあと思っていました。

試験当日はすごく緊張しました。開始直前には少し気持ちが落ちついて、勉強をたくさんしたんだから絶対に合格できる、という気持ちでした。試験中は全く緊張しませんでした。ただ黙々と問題を解いていき、そして1時間半がたち試験が終わりました。試験の合格発表は数週間後なのでとても待ち遠しかったです。そしてパソコンで合格者を調べたら、見事番号がそこに載っていたのです。その時は、とても言葉で言い表せられないくらいうれしかったです。これも勉強をすごくがんばった結果だと思います。

後日、ジオパーク検定の表彰式がありました。800人くらいの大勢の人が来ていました。ステージに立つ少し前は心臓が破れるくらい緊張していましたが、ステージに立つといくらかは落ち着きました。米田市長が自ら、子ども学迎員証を首にかけてくれました。この子ども学迎員証を首にかけてもらっているときは、改めてがんばって良かったあとだと思います。子ども学迎員になると、学迎員ツアーに行くことができます。この学迎員ツアーは実際にジオサイトに向いて、そのジオサイトについてもっと深く知ったり、いつもは入れない鑑定室に入れたりします。ほかにも、海岸に行き実際にヒスイや石をみんなで探したり、フォッサマグナミュージアムに行き、展示品やフォッサマグナについてさらにくわしく知ったりすることができます。この学迎員ツアーでは、よりジオパークのことを知る事ができました。

このジオパーク検定を通して、よりジオパークを知り、ジオパークを好きになれたと思います。最初は興味本位でやり始め、ジオパーク検定のために勉強していくうちに、だんだんジオパークのことが分かってきて、ジオパークのことをもっと知りたいなという気持ちになり、その気持ちでジオパーク検定に挑みました。そうして今に至っています。僕は何事にもそのように努力していきたいです。

僕は前まで、糸魚川が世界ジオパークになったことを知りませんでした。糸魚川が世界ジオパークになったことや糸魚川ジオパークについてを知った今、糸魚川が前とは少し違って見えます。前まで糸魚川は何もないところだなあと思っていたのですが、今はすごくたくさんの良いところがあると思います。糸魚川にはいろいろな地域の特徴があります。白山神社もその一つです。白山神社に奉納される陵王の舞などもあります。さらにあの壮大な不動滝もそうだと思います。不動滝は高さ約70mあり3段もあるのだそうです。こんなにいろいろなどころがあることを分かった今は、糸魚川がとてもいいところだと思います。

僕はみなさんにジオパークのことを知ってもらいたいと思います。糸魚川ジオパークは自分たちのすぐ近く、身近なものです。この糸魚川の地域にしかないものだから、世界に誇れるものだから、みんなで大切にしていきたいと思います。



新潟県立直江津中等教育学校 1年生 田原 奏慧

昨年、学校で「糸魚川ジオパークのことがわかる本」が、クラス全員に配られました。「ジオパークって何？翡翠は知っているけれど何か難しそう・・・」と、家に帰りパラパラめくっただけで机に置いたままでした。

そんな私がジオパーク検定を受けたのは、昨年12月東京で行われた「花伝説サミット」に田沢小学校の代表として参加することになったからです。「花伝説」では他の地域の人たちとの交流の時間があると聞きました。私は自分が糸魚川のことを全然知らないのではないかと感じました。そこでサミットに行く前にジオパーク検定を受けて、糸魚川のことを知りたいと考えました。

私はジオパーク検定のために公式テキストブックを何度も読みました。又、休みの日に弁天岩や白山神社、フォッサマグナミュージアム、海谷溪谷などのジオサイトへも行きました。弁天岩やフォッサマグナミュージアムは、授業で低学年の時にも行ったことがありますが、今までとは見方が違い、新たな発見が得られました。まだ行ったことのないジオサイトが幾つもあります。そこへも行って、テキストブックには載っていないことを勉強すれば、もっと良い点で合格できたのではないかと思います。これからも行ったことのないジオサイトを巡って、ジオパークについて勉強していきたいです。

私はサミットのために、糸魚川市の花「ササユリ」についても勉強しました。全国各地で「ササユリ」を宇宙に届けたのは糸魚川だけです。糸魚川は土も水もきれいだから、きれいな「ササユリ」が育つのだと思います。淡い桃色の優しい花。背が低く遠慮がちに咲く花。こんなに素敵な花が咲く地域で良かったと思います。宇宙を旅した「ササユリ」も早く糸魚川の大地に根付いてほしいと思います。

糸魚川は今、大きなチャンスが来ていると思います。これを生かして、もっと素敵な糸魚川にしていきたいと思います。その

ための方法を考えてみました。

まず、地元の方にもっともっとジオパークのことを知ってもらうことが必要だと思います。そのために、公式テキストブックを、小学校低学年や小学校入学前の子どもたちでも分かるように改良することです。そして、これをもとに小1から小6までの間にジオサイトを回り、卒業までにジオパーク検定初級を取得することを目標にすると良いと思います。もっと興味がある人は、中学へ行っても勉強して上の級を目指せば良いと思います。糸魚川市で育った子どもみんなが「ジオパーク」について知っていれば、観光客にジオパークのことを聞かれても、案内することができます。また、将来糸魚川を出て行っても、みんながジオパークの面白さを知っていれば、ほかの地域の人たちへ伝えられると思います。

県内や県外の人たちに伝えるようにするために、考えたことは、「ぬーな」と「ジオまる」をもっと有名にすることです。とてもかわいいキャラクターなので、子どもにも大人にも受け入れられると思います。今、ゆるキャラが全国各地でブームになっています。「ぬーな」や「ジオまる」がゆるキャラのイベントに参加するなどして売り出せば、きっと人気が出ると思います。

これからも、いろいろアイデアを出して、より良い糸魚川にしていきたいです。



パネルディスカッション

武田鉄矢と語る “今、ジオパークがおもしろい！”

日本に世界ジオパークが誕生して、ちょうど1年が経ち、全国的に「ジオパーク」が動き始めている中、地方発の新たな地域づくりとしての「ジオパーク」の可能性を探るとともに、ジオパークの魅力や楽しみ方、今後の展開などについて、武田鉄矢さんの鋭い感覚とユニークな視点を交えながらパネルディスカッションを行った。



コーディネーター 俳優・タレント 武田 鉄矢

1949年福岡県福岡市生まれ。福岡教育大学を2008年名誉学士授与により晴れて卒業。1972年海援隊のメンバー、中牟田俊男、千葉和臣と共に上京。翌年発表したセカンドアルバム「望郷篇」に収録された「母に捧げるバラード」が大ヒット。1977年初の映画出演「幸せの黄色いハンカチ」により日本アカデミー賞最優秀助演男優賞を受賞。1979年TBSテレビ「3年B組金八先生」主演。主題歌「贈る言葉」は海援隊の代表曲になる。その後も、映画、テレビドラマ、バラエティー、執筆活動、映画監督、海援隊としてのライブなど多岐に渡って活動。2010年NHK大河ドラマ「龍馬伝」に勝海舟役で出演など、18歳で出会った「坂本龍馬」への想いが42年経った現在、表現できる年となる。



**総合司会・アシスタント
キャスター・糸魚川ジオパーク大使 伊藤 聡子**

糸魚川市出身のフリーキャスター。糸魚川ジオパーク大使。大学在学中に「関口宏のサンデーモーニング」でデビュー。その後も報道番組などでキャスターを務める。2002年に1年間、アメリカに留学。帰国後はテレビ、ラジオでキャスターを務めるほか、カンボジア視察をするなど、国際貢献への関心も高い。また、「地域活性化が日本経済の元気を取り戻す鍵」が持論。現在、事業創造大学院大学 客員教授。



**パネリスト
東京大学大学院教授 松原 隆一郎**

1956年兵庫県神戸市生まれ。東京大学工学部都市工学科卒業、同大学院経済学研究科博士課程修了。専攻は社会経済学。1990年頃からマスメディアで言論活動を始める。同じ頃から格闘空手（立ち技系総合格闘技）を始め、現在、国際空手道連盟大道塾四段。同塾ビジネスマンクラス師範代。柔道三段。現在、東京大学大学院総合文化研究科教授。

パネリスト



渡辺 真人
独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員・理学博士・日本ジオパーク委員会事務局



高橋 竹山
津軽三味線奏者・糸魚川ジオパーク大使（糸魚川市在住）



米田 徹
日本ジオパークネットワーク会長・糸魚川市長

おもしろい「ジオ」の日本列島

【武田】糸魚川ジオパークといえば、必ず糸魚川-静岡構造線が出てきますね。

【渡辺】糸魚川-静岡構造線というのは、日本を2つに分けたときの境目です。日本列島はもともと中国大陆にくっついていて、日本海ができるときに、2つに分かれて開いてきた。東北日本、西南日本といいますが、その境目が糸魚川-静岡構造線なんです。開いてくるときに深い海に大きな溝ができて、そこがフォッサマグナです。それが1,500万年前のことです。今は日本列島の2つの部分が押し合っているため、断層の西側に北アルプス、南アルプスといった高い山があります。

【伊藤】日本は11のジオパークが認定されているわけなんですけれども、海外と比べて、日本はジオ的におもしろい場所なんですか？

【渡辺】おもしろい場所ですね。大陸のへりにいろんなものが寄せ集まって日本列島の土台ができて、それが開いて今の形になって、さらに押し合って、その上に火山が噴いていて、いろんなことがもう何億年にもわたって起こっているんですね。だからジオの目で見ると、日本列島というのは世界でも本当に見どころいっぱい場所になると思うんです。

【松原】普通、地震があるとか火山が噴火したっていうと、被害を受けるという目で見るとはいいけれども、そうではなくて、地球の動きを楽しむような目も持っていこうという、そういうことなんです。

【渡辺】そうですね、例えば、北海道の次にジャガイモが採れる場所が島原半島なんです。それは火山灰のおかげなんです。火山灰の土地というのはジャガイモを作るのに向いている。あるいは

地震に関しても、地震が日本の島を作ってくれているんです。地震でずれるたびに片方が高くなる、それできれいな山ができる。普段は私たちは火山や地震のおかげでできた大地を楽しんでいる。でも時々、そのつけを払わなければいけない、そういう風に思っているんです。

「ジオ」的な生き方とは

【武田】司馬遼太郎さんの書かれたエッセイに、「もうわたくしども人間はカントリーではなくグラウンドで少しものを話しませんか」という言葉があります。国というもので見るんじゃなくて、地面とか大地というところから人間というものをもう一度考え直しませんか、ということです。人々はカントリーではなく、ジオで語り合うという考え方がほしいですね。人として生まれてきた以上、カントリーではなくグラウンド、あるいはジオで語らないとつまらないですなあ。

僕ははたく感動したんですが、昭和山って私有地なんです。明治のとても立派な人が、郵便局長をやりながら、コツコツお金をためて、それで活火山ひとつ買ったんです。活火山を手に入れたところで何もいいことがないんですよ。ただし、この人は違うんですよ。毎日昭和山を訪れて、観察することによってその記録を残しておけば、この山が噴火するときに、全部前兆として、人々に避難勧告を伝えることができる。そのために自腹で活火山を買ったんです。

【渡辺】三松正夫さんですね。

【武田】こんな人世界にいないでしょう、ジオ的な人ですよ。

【渡辺】ちょうど戦時中、火山学者がなかなか東京から観察に来れないこともあって、自ら危険を冒して観察なさって、記録を残された。

【武田】その後、この昭和新山は、たちまち価値が認められて、国も国家の宝とするわけですね。

【渡辺】それも三松さんの働きかけで天然記念物になったんですね。

【武田】それからもうひとつ、島原半島もなんですが、活火山の手前のほうにある小さな山、この眉山を地元の人々は神様みたいに言うの。普賢岳が土石流を流しても、この眉山が防ぎ止めてくれる。活火山の手前に屏風みたいに立っているんですよ。

作物や水がおいしい糸魚川

【伊藤】糸魚川はかなり早い段階からこういった地質の特徴に目をつけて、これを地域の宝にしていこうという活動をしていらっしゃったわけですね。

【米田】糸魚川は1987年に「フォッサマグナと地域開発構想」というひとつの考え方をもって進めてきました。糸魚川-静岡構造線の断層を、多くの人に知っていただいたり、見ていただくのではないかとというようなことからスタートしております。大地の生き様をみんなで学習なり勉強して、地域の振興につなげていこうということでスタートをしたわけです。

【武田】市長、糸魚川の農作物というのは？

【米田】糸魚川は地すべりの有名なところでもあります。地すべりというのは住んでいる人たちにとっては大変な事柄なんですけど、裏を返せば、その地すべりも豊富な土の成分が下から出てくるわけですので、それが非常に良い影響になって、おいしい作物ができるわけです。ですからここに根付いた農家の方が何代も前から有史以来、ふるさととして培ってきているわけです。

【武田】有史以来という言葉がすごく響きますね。どうも活火山があるところというのは、水がいいみたいです。

【伊藤】糸魚川にも焼山という火山がありますね。

【武田】水がおいしいですね。阿蘇もそうでしょ。阿蘇は白水という呼び方をしますが本当に水がいい。鹿児島もいいんですよ。島原もいいです。

【米田】糸魚川市の中においては、谷ごとにいろいろな土の成分があり、その地下から出てくる水というのは、それぞれに味わいがあります。糸魚川には5つの酒蔵があって、水系の中にあるわけです。ですから、お酒も全て一緒ではなく、個々にその味を醸し出して、おいさを提供しているわけです。

【渡辺】日本に何でそんなに水があるのかと思ったら、たくさん雨が降るからですよ。特にこの糸魚川の場合、冬にたくさん雪が降って、その水が湧いてくるんですけども、それは1,500万年前に日本海ができてくれたおかげなんです。さらにその後、押し合っただけで山が高くなりますよね。それで、日本海を通ってきた湿った風が山に当たるから、冬に大雪がある。それがおいしい水となって湧く。

【武田】つまり、これだけの知識があるわけですよ、皆さんには。地元の温泉や水について、日本海について、山について。

高橋竹山から見た糸魚川

【武田】高橋さん、相方と一緒に住まれて、いかがですか糸魚川は。

【高橋】一言では申し上げられませんが、やはり10年いるということ

は、どこかいいんでしょうね。今回、ジオパーク大使ということをやらせてつかって、いろんな面で自分の住んでいるまちの知らない部分を、市長さんはじめ皆さんからご指導いただいて、とにかくすごい場所に住んでいるんだなあ。海・山、大きな意味での地球をひとつに見た上だと、わずかな1か所なんですけれども、わずかな1か所イコールすべてだと思っています。それをうまく生かして、みんなが共有できて、気持ちよく暮らせるということが一番いいんじゃないかと思っています。

【武田】どうですか、三味線の中でこの糸魚川というイメージは。例えば津軽三味線というのは津軽の深い歴史の中、ジオ的な歴史の中から湧いて出てきますが。

【高橋】そうですね。やはり私たちの三味線は大地の叫びのような部分がありますね。私は青森の津軽に6年ほど内弟子に初代のところに行っていましたけれども、糸魚川は青森と似たところがあります。海と山とね、あと食べ物もしかり。

【松原】自分の曲、演奏が一番合っているような糸魚川の景色というのはありますか。

【高橋】それはもうたくさんありますね。その場所で弾きたいとか、この場所で歌いたいとか。時間があれば、全部回ってその場所場所で弾くのもいいなという風に思っております。

ご当地グッズとまちおこし

【武田】続いて登場したこちらは何でしょう？

【米田】各ジオパークの皆さんが作った商品です。ジオパークの発信には普及啓発が大事なんだということを、日本のジオパーク11地域と、今目指している地域にお願いしています。

【松原】ジオパークになるには、単に自然条件が珍しいということだけではなくて、まちおこしも条件に入っているんですね。

【渡辺】そうですね。まずジオのすばらしいものがある、そのすばらしさを町の人たちが共有すること、それからそれを情報発信して、多くの人に知ってもらうこと、その結果として地域が潤うこと、というのがジオパークの重要な点になってきます。

【松原】ひとつの表れがこういう商品として出てきているわけですね。

【米田】貴重な地質資源をどのように地域の皆さんが自分のものにしながら生かしているか、それをどのように皆さんがチャンスとして地域振興につなげているのかというのが評価になりますね。

【伊藤】ですから世界遺産とはまた違うものなんですよ。

【米田】そうですね。その辺の違いは何かというところ、やはり保全と保護だけではなく、それを自分たちの地域のものとして振興し活性化しているかということですね。

【武田】糸魚川も含めてだけど、新潟っていうのは、最近日本中から注目度高いですね。

【米田】最近よく地域主権と言われてるように、地方はどのように自分たちをこれから情報発信できるのか、どのように自主自立の中で進めていくのかというのが、我々に問われている大きな課題でもあるわけでありまして。

【武田】この間新潟市長と話したんですが、「昔は新潟は田んぼばかりでってよく笑われていました。ところがちょっと言葉づかいを



変えて、自給自足が可能な県っていうと、みんなパッと顔色が変わるんですって。自給自足が可能な県なんて、そうそう日本中にはありませんから。ものの言い方とか考え方をひとつ捻ると、まったく別のものに見えてきたり、別の価値が見えてきますね。

【米田】そうですね、だから糸魚川は海があって、住んでるところがあって、すぐ山がある。これは海の幸も山の幸もすべて共有できますし、非常にコンパクトな中で生活できるというしくみも、これから大事になってくると思います。

ジオパーク関係者は熱い人が多い！

【武田】さて、発展的な意味合いで、この地域というものをもう一度とらえ直していこうという話ですが、やっぱり明治以来の行政では少しくまらなくなってきたところが出てきたと。

【渡辺】ジオパークの場合はまず地面があって、その上にあるものを全部を地域の資源ととらえて地域の振興を考えていきますから、課や部で分けてやっていただけではできないんですね。森も関係する、地面も関係する、川も関係する、商品の開発もする、観光もする。そして教育というのもジオパークの重要な部分ですから、市役所の中の大勢の人、それから市に住んでいる大勢の人が関わらないことにはジオパークってうまくいかない。だからジオパークの申請をして審査に通ろうとするだけで、まちが活性化すると私たちは思っています。

【松原】やっぱりこういう地域の活性化とか、地質以外のことにも全て関心を持たないと、ジオパークとは付き合いができないということになるわけですね。

【渡辺】できないですね。ただ面白いのは、こう言うと怒られるのですが、最初、ジオパークの話に行くと、そっけない対応なんです。でも乗ってくると、それまで話してた人が「これはやらなきゃ」みたいな雰囲気になってくる。地元の人や自治体の人やそうやって変わっていくのを見るのが私にとってはすごく幸せなこと、多くの地域がそうやって盛り上がり、どんどんジオパークになってきて、あとからあとからいろんな人がやってくる。そういう人たちとお話すると、どんどん変わってきている人だから、熱いんですよ。

【米田】大地なり鉱物は語ってくれないわけですよ。相手にどう伝えるのかというのは、やはり伝える地元の人たちやガイドの人たちが熱くならないければ相手も熱くならないわけです。

【伊藤】先ほど子どもたちが発表していましたが、例えば外国からのお客さんも今後は増えるでしょうから、子どもたちが自分のまちのこと、ジオパークのことを説明してあげられるような、そんなまちだと本当にPRにもなりますし、すごく素敵になりますよね。

【武田】この糸魚川、あるいは他の2つの場所が持っているジオパークとしての魅力は一体何かというと、暑苦しいくらい愛する人がそこにいることなんですよ。例えば、ど田舎だなと思っていた田舎町の人、そこにものすごい幸せとプライドを持っていると、たじろぐんです。それが、僕は文化の本当の価値ではないかなあと思うときがあるんだよね。僕は歴史が好きなので、龍馬が生まれたふるさととか、西郷隆盛が生まれたふるさととかへ行くわけですが、そういう人たちが、その風土を見せてくれる。それは糸魚川の人たちにも、あるいは糸魚川の子たちにも、絶対にあると思うんだよね。それはもうお金に換え難いすばらしいものだと思うんだよね。

【伊藤】糸魚川で言えば、東と西の文化がどちらも同時に混在する、そういう中で育ってくるということの独自性というのがやっぱり生

活の中とか、言葉づかいとか、食べ物の好みとか、そういうものにも現れていると思うので、そこはやっぱり大事にしていきたいところですよね。

糸魚川のヒスイ

【松原】私、ヒスイのことが書かれた物を読んでみたんですけども、こちらのヒスイって、もともと縄文時代などでは日本中のあちらこちらに旅をしていたんですね。戦前まで糸魚川のヒスイがあるということが知られていなかった、ヒスイというのは海外から来たのだらうと。その後、再発見されて、糸魚川にヒスイが採れるところがあるということが分かったと。

【米田】ヒスイはあまり発掘されない、信仰であったり、宗教のシンボルとしてあったのではないかなと思います。

【武田】ということは、かつての古代、ここはヒスイを中心とした巨大な勢力があったとか、メッカ的な場所であったということは言えるわけですね。

【米田】言い伝えの中に奴奈川の姫がいたというようなことがあるわけですから、ヒスイが加工され、または原石のまま、日本全国なり、または東北アジアに広がったのではないかな。そうすると、この時代はここが情報の発信基地でもあったのではないかなという気もします。

これからの糸魚川とジオパーク

【伊藤】しかしジオの話をしていると、スパンが1,000年単位という話になってきますけれども。

【渡辺】今日の午前中、「ジオパーク千年構想」という話を分科会のひとつでやっていました。私たちはジオパークに住んでいる人なんだから、長いスパンで物事を考えましょう。過去1,000年、あるいはもっと長いスパンをまずみんなで振り返って、そして次の1,000年、うちのまちはどうしたらいいんだろうというのを、このジオパークを機会に考えましょうという話をしました。千年構想なんてなかなか実感がわかないなって話も正直あったのですが、例えば、地震が起こる、火山が噴火するっていうのは、人間の生きている間に必ずしも起こったり繰り返したりするような現象ではないですから、そういうことを踏まえて、人間がどうやって生きていくかを考えると、1,000年くらい考えなきゃ、というようなことで、いろいろな知恵を出しているところなんです。

【武田】僕はこう、せっかくジオパークっていう巨大な名前を冠することができるわけですから、経済とは別の価値みたいなものがこの糸魚川から発信されればいいなあと思いますね。

【渡辺】今日、千年構想の話をする中で、糸魚川は例えば2,000年前にヒスイで中心だったと、今後はジオパークで1,000年後には情報を発信する中心になろう、なんていう、そんなアイデアも出ましたね。

【武田】吹く風、流れる水、打ち寄せる波、広がる海には、値段がつけれません。その値段がつけられないものが、このまちにはいっぱいありますというのは、やっぱりまちとして大きなまちになる可能性だと思えますよね。値段がつけられないものっていうのが実は一番高価なものなんだっていう、そういう地方からの新しい価値観の代表に、この糸魚川が名前を挙げてくれないかなということ、心より祈っております。



記念演奏

糸魚川ジオパーク音頭 ほか

津軽三味線奏者
糸魚川ジオパーク大使 高橋 竹山

- 新じょんから変奏曲（高橋竹山）
- 津軽山唄（青森県民謡）
- 糸魚川ジオパーク音頭
（作詞：佐々木幹郎、作曲：小室等、唄：高橋竹山）



高橋竹山プロフィール

18歳で津軽三味線奏者の初代・高橋竹山の内弟子となる。三味線のみならず、格調高い津軽民謡も学びながら、高橋竹与の名で師・竹山と共に舞台に立つ。1997年「高橋竹与」改め「二代目・高橋竹山」を襲名。その後も基本を大切にしながら、民謡にこだわらず様々なジャンルの演奏家たちと共演して活動の場を広げ、独自の音楽表現を模索。伝統にモダンな現代感覚と女性らしい繊細さを盛り込んだ演奏活動を続ける。現在、糸魚川ジオパーク大使を務める。

次期開催地あいさつ

洞爺湖有珠山ジオパーク



第1回目の記念すべきこの糸魚川大会、本当に盛會に無事終了されたことを心からお喜び申し上げたいと思います。

私どもの第2回目の大会も、この糸魚川の大会の熱氣溢れる大会に負けず、盛大にがんばって開催したいと考えております。

来年は9月の末から10月の頭にかけてということで、今おおよそのスケジュールは考えてございますが、また正式に決定次第、概要も含めて皆様のもとにご案内を差しあげて、全国から多くの皆様方に、洞爺湖有珠山ジオパークへお越しいただきたいと考えております。

先ほど、武田さんのお話にもありましたが、昭和新山の三松正夫の人間ドラマ、あるいは2000年の噴火のように、20世紀に入って100年間に4回も噴火している山でございますので、そういう噴火する大地と人間のドラマというものを、ぜひ、その目でご覧になっていただきたいという風に思っております。

私ども、地域全員こぞって皆様方を熱く歓迎申し上げます。よろしくお願いいたします。よろしくお祈りいたします。

洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会
会長 北海道 壮瞥町長 山中 漠

閉会の言葉

大会実行委員会副委員長
新潟県糸魚川地域振興局長 井上 雄二

昨年8月に日本の3地域が日本初の世界ジオパークに認定され、ちょうど1年が経ちました。この糸魚川の地で日本ジオパーク大会が開催され、多くの皆様からご参加いただき、大会に関わった皆様方のお力添えにより、すばらしい大会にすることができ、成功に終わったことを心から感謝する次第でございます。

今後、日本のジオパークが、関係者の皆様の一層のご尽力により、それぞれの地域の特徴を生かした取り組みによりまして、地域の活性化や教育等に貢献いたしますとともに、世界のジオパークとのつながりを深め、ますます向上・発展いたしますことを願い、本大会を閉会いたします。



大会宣言

大会宣言

昨今の地球規模の環境変化や資源の枯渇など、人類につきつけられた課題を解決するためには、地球と人間との関わりやその仕組みなどを、まず世界の人々が知ること、理解することから始まる。

ユネスコ：国際連合教育科学文化機関が支援する「ジオパーク」とは、大地と人との関わりを学習する場であり、まさに時機を得た取組といえる。

現在、世界ジオパーク認定地域は、21 国 66 地域となり、世界ジオパークネットワークという強固なネットワークが構築され、今も各地に広がりつつある状況となっている。

一方、日本では、2007 年 10 月 4 日、ジオパーク活動推進のため 11 の関係地域が集まり、産業技術総合研究所、全国地質調査業協会連合会、日本地質学会、NPO 法人地質情報整備・活用機構 (GUPI) の絶大なる支援により「日本ジオパーク連絡協議会発起人会」が開催された。

それからわずか 3 年弱で、日本におけるジオパークは 11 地域となり、うち 3 地域は世界ジオパークの仲間入りをするに至っている。

ジオパークを目指す地域を含めれば、日本国内約 40 地域、100 を超える市町村がジオパークへの取組を始めたことになり、今まさに、ジオパークが日本に定着していこうとしている。

この歴史的転機にあたり、このたびの日本ジオパーク糸魚川大会では、関係省庁や自治体をはじめ、関係学会・業界、大学や教育関係者など、1,000 人を超える多くの関係者が一堂に会し、今後、日本におけるジオパークをさらに発展させるための大きな一歩を踏み出すことができた。

私たちは、ユネスコの支援するジオパークの理念に賛同し、大地の遺産を保護し次世代に継承していくこと、また、教育として多世代のニーズに合わせ大地と人のかかわりを示すこと、そして、ジオツーリズムを日本国民の新しいスタイルとして定着させること、さらに、ジオパークを使った多様な地域振興を試み、持続可能なジオパークを実現することに全力を挙げて取り組むとともに、以下の事項を強力に推進していくことを、ここに宣言する。

- 一、私たち「日本ジオパークネットワーク」は、各ジオパーク間の信頼と互惠の精神を基礎に、より強固なネットワークを築き、日本のジオパーク運動を強力に前進させていく。
- 一、世界各地のジオパークとも連携し、特に、アジア-太平洋地域のジオパークネットワークの活動に貢献していく。
- 一、地球と人との関わりを十分に理解し、千年後のふるさつを見据えた構想を持ち、明るく元気のある地域振興を実現していく。

2010年8月22日

日本ジオパークネットワーク



会場の様子

シンポジウムには、ジオパーク関係者や市民など約1,000人が来場し、糸魚川市民会館前やエントランスホールでは、各地域のジオパークのポスター展示コーナーが設けられたほか、糸魚川ならではのおもてなしやPRが行われた。



▲入口には、世界ジオパークや日本ジオパークネットワークの紹介のほか、全国のジオパークや香港ジオパークのポスター、リーフレットなどが展示された。エントランスホールには、市内の小・中学生によるジオパーク活動のポスター展示や子ども一貫教育方針「糸魚川ジオ学の創造と展開」や英語教育へのジオパークを活用した取り組みが発表された。



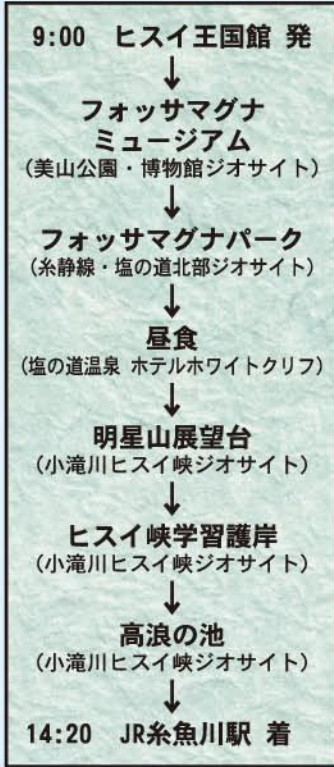
◀▲バタバタ茶の会の皆さんが、糸魚川伝統の「バタバタ茶」で来場者のおもてなしをしたほか、地元の特産品の展示販売、糸魚川青年会議所の皆さんによる「南蛮エビ(甘エビ)」のPR、ジオパークにちなんだお菓子のお土産コーナー、糸魚川ジオパークグッズの販売、糸魚川ジオパークにちなんだ「ジオパーク丼」の販売などが行われた。

ジオサイト見学会

8月23日(月)にはジオサイト見学会を実施。「山」と「海」の2コースに分かれ、糸魚川ジオパークを代表するジオサイトを見学した。

Aコース 大地の歴史コース

参加者/54人



▲フォッサマグナミュージアムの前に置かれたヒスイの原石



▲フォッサマグナパークの糸魚川-静岡構造線の断層露頭



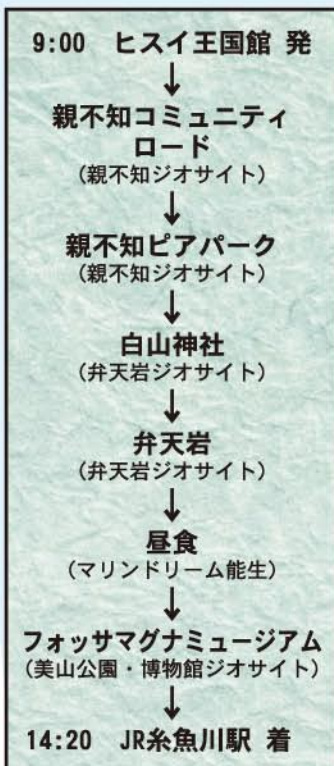
▲展望台から明星山の大きな岩壁を見上げる



▲小滝川ヒスイ峡の河原に降りる参加者の皆さん

Bコース 海の文化道コース

参加者/34人



▲親不知コミュニティロードから望む4世代道路



▲親不知ピアパークの翡翠ふるさと館にある102tの巨大ヒスイ岩塊



▲海洋文化をはじめとする文化財の宝庫・白山神社



▲弁天岩でのジオパーク認定ガイドの説明

関連事業

意見交換会

第1分科会

【参加者】65人

テーマA. ガイドの養成

テーマB. 推進組織の体制強化と意識高揚



コーディネーター
佃 榮吉

独立行政法人産業技術総合研究所研究コーディネーター
日本ジオパーク委員会事務局長

第1分科会では、ガイドの養成・推進組織の体制強化と意識高揚を中心テーマとして議論が進められた。参加者はガイドの方々をはじめ、各ジオパークの自治体関係者など65人であった。お互いを知り合うことが大事であることから、10人程度のグループに分かれてもらい、自己紹介など自由な意見交換をまずしていただき、各グループで互選されたリーダーから議論内容について報告をもらうこととした。これまでの活動内容、問題点、悩みなど、ジオパーク活動において各地域で共有すべき興味深い以下のような内容が紹介された。

- ・ガイドのレベルアップの重要性とその方法、地域の大学等との連携の必要性。
- ・地質・植物などそれぞれの専門性の高い人はすでにいるが、総合的にジオパークとしてガイドできる人は少ない。
- ・興味深いサイトは危険が伴うこともあるので、安全を確保してそこまで連れて行くことが困難な場合が多い。
- ・ガイドの高齢化がどうしても進む（リタイアして時間に余裕のある人が多い）ので、若い世代の参加をどうするか。これについては小学生の学習活動としての取り組み（島原半島）や「子ども学迎員」制度（糸魚川）などが紹介された。
- ・人数が少ないことから、ガイドの負担の増大、ガイド料金をもらっても割に合わない感がある。
- ・ガイド養成講座への参加者は多いが、実際にガイドとして活躍してくれる人は少数。
- ・ジオパークの周遊性を増加させるストーリーの開発が必要（室戸）。
- ・来客者に対してスナックのママさんや床屋さんによるジオパークのイントロの解説などが試みられているが、タクシー運転手の解説能力の向上にはまだ課題も多い（糸魚川）。



今回の分科会での議論を聞き、ガイドの方々はまだまにジオパークの顔であり、ジオパークでの居心地の良さに大きく影響する非常に重要な存在であること、ハコモノ行政とは対極にあるジオパーク活動において、魅力的なガイド養成・人づくりがとて重要であることを再認識した。この大会に出演された武田鉄矢さんが「ジオ的」という言葉を多用された。「ジオ的」とは「通常とは長い時間スケール（地質学的時間スケール）、より広い空間スケール（地球規模）で物事を考えること」と勝手に理解している。少し悪のりして言うと、ジオパークガイドの方々には地域の成り立ちとそこに住む人々の歴史・営みについて、ジオ的世界観をもって、楽しく生活実感を持ってリアルに伝えることのできる人ともいえるのではないかと考えている。

今回企画されたガイド養成とその技術向上に関する分科会はジオパークの発展にとって重要な内容であるので、次回、洞爺湖有珠山ジオパークでの大会でも継続して取り上げてもらいたいテーマである。是非、それぞれのジオパークガイドモデルをさらに進化させていただきたい。

第2分科会

【参加者】43人

テーマA. 教育活動の推進

テーマB. ジオツアー



コーディネーター
中川 和之

時事通信社編集委員
日本ジオパーク委員会委員

第2分科会は、「教育活動の推進」と「ジオツアー」をテーマに行った。限られた時間の中で、意見交換よりも事例の共有に重点を置き、両方で33のジオパーク（候補地含む）での取り組みが報告された。

19の報告があった教育活動は、住民がジオパークに関心を持ってもらうための啓発的なプログラムを上げるところが多く、地元の学校でジオパークをテーマにした総合的な学習の時間などを使って実施しているところもあったが、遠足や修学旅行など外部の子どもたちを対象にしたケースは少なかった。

教育の担い手については、「出入りする研究者」（アポイ岳）、「岡田、宇井の両先生に加え、火山の専門知識を持った人を火山マイスターとして養成」（洞爺湖有珠山）、「地域のまちづくりの人たちが講師。島根大の先生の協力を得て、レベルの高い学習会も」（隠岐）、「大学理学部の学生や卒業生が、地元の住民や小中学生に野外観察会や体験講座を実施」（茨城県北）など大学と連携しての人材育成が行われている。また、「学会行事に参加した小中高生の16人を子どもジオパークアドバイザーに認定し、JGCの現地調査でも説明をもらった」という室戸や、「ジオパーク検定に人口の1%が参加。飲食業や理容店などにジオパークマスターが120人」という糸魚川の発表には、地域の盛り上がりを実感させられた。

教育プログラムとしては、「近くの小学生が授業の一貫で博物館を活用」（南アルプス）、「学校教育との連携で、0歳から18歳までの一貫教育での糸魚川ジオ学」（糸魚川）、「恐竜化石の発掘体験が人気で、昨年は47都道府県からの子どもたち1万2千人が体験」（ふくい勝山）、「博物館の学芸員が中心で、学校周辺のジオ素材で子どもたちが研究活動をして発表」（阿蘇）、「来年から

地元の県立高校で2単位のジオパーク学を導入」(室戸)、「子ども会の教室で、河原の石の観察会」(下仁田)、「うちの学校のジオサイト作りを実施」(島原半島)などの事例が報告された。「黒曜石を勉強した小学生が、修学旅行に行った札幌駅前でジオパークをPRした」(白滝)というユニークな取り組みもあった。

「学校の先生やOBにサポートしてもらっているが高齢化が心配」、「もう少し若い人も参加して欲しい」という担い手の高齢化があちこちから上げられた。また担い手に学校の先生OBが多かったが、知識を元に野外でのお勉強になってしまうとジオパークの楽しみ方が偏ってしまうことも心配された。

ジオツアーに関しては、旅行代理店による本格的なツアー企画が実施されている地域は、糸魚川や隠岐、伊豆大島など限られていたが、各地で養成したガイド付きのツアーが取り込まれつつあることが分かった。一方で、ジオツアーの質の向上には、ガイドのレベルアップが課題ということも確認された。

具体的には「大潟村では地域住民でのガイドが確立、1万5千人以上の案内の実績。仙台や首都圏の居住者を対象にしたモニターツアーを計画中」(男鹿半島)、「ネイチャーガイドでジオコースを販売するチラシが完成。格安のジオパーク申請記念ツアーも」(伊豆大島)、「東京や横浜、関西の中高校生の修学旅行でバスジオガイドは好評」(阿蘇)、「イオングループのカード発行で記念ツアーを販売」(隠岐)、「遊覧船や水上タクシー、ジオカヌーなど海も取り入れたツアーや、スノーシューで地質を確認するようなツアーも」(山陰海岸)、「南アルプスの登山バスをジオラインと位置づけたら、定員50人がすぐいっぱい」(南アルプス)、「定期観光バスに認定ガイドが乗車。夏休み応援体験学習ツアーには全国から」(糸魚川)などの事例が紹介された。

「観光系の大学にジオサイトを巡ってもらい、新しいツアーの提言をしてもらっている」(山陰海岸)、「サイトごとにポケットブックを作成し、ガイドが使えるようにしている」(洞爺湖有珠山)などの工夫も見られたほか、「化石発掘がメインだったが、火山の岩屑雪崩による巨大岩塊が好評だったのは意外」(ふくい勝山)という報告もあった。



第3分科会 【参加者】35人

テーマA. ジオ関連商品の開発 テーマB. ジオパーク千年構想

コーディネーター
渡辺 真人

独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員
日本ジオパーク委員会事務局



第3分科会は、「ジオ関連商品」と「ジオパーク千年構想」の二つのテーマを取り扱った。参加者は各ジオパークのジオ関連商品を持ち寄り、自己紹介を兼ねて説明した。地域ごとの様々な工夫は新たな発想のタネとなったと思われる。

次に「ジオパーク千年構想」についてのグループ討論を行った。各地域の過去の歴史を振り返ったうえで、千年後の自分たちの地域がどうなるか、どうしたいか考えよう、と言う企画である。各テーブルでは、あるジオパークに絞って、あるいは参加者それぞれの地域について千年後を考えた。各グループの発表の一部を以下に紹介する。

- ・今の人口減少が続くと千年後には人口0になりかねないので、ジオパークで千年後には人口を今の倍にしたい。
- ・室戸では100年に1回南海地震が起こって新しい大地が生まれる。千年後にはおよそ2m隆起するので、海底の岩盤にタイムカプセルを取り付け、ジオパークを始めた思いなどを書いて入れておき、海底が陸地になった頃あけてもらう。
- ・火山を鎮めるための阿蘇神社の歴史は2,300年前にさかのぼる。千年後も火山と共に生きていくためには、火山の多い九州、という単位でジオパークを考えたい。
- ・糸魚川の石灰岩資源は千年持たない。今後の暮らし方を千年構想で考えていきたい。
- ・防災を考える上で「伝える」ことが重要。今のデジタル情報は果たして千年持つか？人から人へ伝えることが大事で、それを千年続けることが重要。
- ・千年前にはアポイには和人ではなく先住民が暮らしていた。それを考えると千年後をどうイメージすればよいのか？
- ・アポイ岳の高山植物は温暖化でなくなりつつある。一方暖かくなった北海道でおいしいお米ができるようになってきた。千年を考えると、また寒くなる時のために高山植物をどこかに避難させて栽培しておいたらいいのだろうか？
- ・千年後も糸魚川ジオパークの中に不便で簡単には行けない場所を残しておきたい。その方がツーリズムとして魅力的だ。
- ・糸魚川はヒスイを日本中にもたらした交易の拠点だった。今後はジオパークを通じた文化交流の拠点にしたい。千年間世界の人と交流して、糸魚川の良さを見つけながらジオパークを続けていきたい。

これからJGN全体として千年構想に取り組んでいくその最初の試みとして、多くの人が自由な発想で様々なアイデアを出したことは今後につながると思われる。最後に、尾池委員長から、「分科会はいへん有意義。テーマを公募して、各地で困っていることをみんなで考えよう」とのコメントがあり、分科会は終了した。



関連事業

事前相談会

8月21日(土)、ヒスイ王国館において翌年度申請地域事前相談会を行った。世界及び日本ジオパーク申請予定地域を2会場に分け、一括相談の形式で実施した。



【世界申請予定地域参加者】アポイ岳3人、南アルプス2人、隠岐2人、天草御所浦2人
(担当：JGC 中川・佃・濱崎、JGN 関係者5人)



【日本申請予定地域参加者】下仁田3人、磐梯山4人、伊豆大島2人、男鹿半島・八郎湖2人、茨城県北4人、秩父2人、白山-手取川2人
(担当：JGC 加藤・渡辺、JGN 関係者2人)

関連事業

臨時総会

8月21日(土)、事前相談会の後、ヒスイ王国館において日本ジオパークネットワーク臨時総会を行った。日本ジオパークネットワークのNPO法人化と来年のJGN大会を洞爺湖有珠山で行うことなどを決定した。



【出席者】正会員11人、準会員6人、オブザーバー6人及び来賓(JGC)等、約100人



関連事業

交流会

8月22日(日)、シンポジウム終了後、出演者を交えた交流会がヒスイ王国館において行われた。



【参加者】約170人



発行/お問い合わせ

■日本ジオパーク糸魚川大会実行委員会

〒941-8501 新潟県糸魚川市一の宮 1-2-5 (糸魚川市役所ジオパーク推進室内) TEL.025-552-1511



※本報告書内の敬称は省略させていただきました